

飯伊 産業経済動向

No.523 2022/10
(4.11.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標	実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	1,842 枚	△ 3.1 %	△ 10.4 %	△ 18.5 %	△ 39.8 %
	金額	1,799,042千円	△ 6.5 %	△ 29.6 %	△ 44.0 %	△ 45.5 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 5 枚)	(前年同月 0 枚)	(前々年同月 1 枚)	(令和元年同月 13 枚)
	金額	0千円	(前月 609 千円)	(前年同月 0 千円)	(前々年同月 370 千円)	(令和元年同月 12,258 千円)
倒産件数 (負債総額1千万円以上) (9月)	県内	4 件	(前月 6 件)	(前年同月 4 件)	(前々年同月 6 件)	(令和元年同月 7 件)
	飯伊	0 件	(前月 4 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 0 件)	(令和元年同月 3 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(9月)	43 戸	△ 25.9 %	△ 44.9 %	△ 33.8 %	△ 38.6 %	
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(9月)	1.67 倍	(前月 1.68 倍)	(前年同月 1.38 倍)	(前々年同月 1.04 倍)	(令和元年同月 1.45 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,928 台	△ 7.4 %	18.4 %	△ 12.9 %	7.3 %
	中古車	648 台	2.0 %	△ 11.2 %	△ 17.7 %	△ 14.8 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会) (9月)	新車	4,078 台	37.6 %	36.4 %	△ 16.8 %	△ 30.0 %
	中古車	978 台	6.3 %	△ 0.5 %	△ 1.9 %	△ 0.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	101,553 台	8.4 %	3.8 %	△ 3.1 %	△ 10.2 %
	出	105,807 台	8.9 %	8.3 %	△ 0.3 %	△ 7.6 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	69,183 台	14.6 %	6.7 %	△ 12.4 %	△ 14.7 %
	出	66,033 台	13.8 %	2.0 %	△ 15.1 %	△ 15.2 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	26,680 台	41.4 %	41.9 %	27.5 %	53.8 %
	出	19,670 台	37.4 %	3.5 %	△ 7.5 %	13.8 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	51,829 台	13.8 %	8.8 %	14.2 %	18.0 %
	出	60,804 台	24.2 %	26.7 %	33.5 %	36.1 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	38,981 台	11.4 %	19.0 %	- %	- %
	出	37,980 台	11.3 %	19.2 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)	112 件	△ 26.3 %	△ 5.9 %	△ 47.4 %	△ 24.3 %	
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)	0 件	(前月 4 件)	(前年同月 2 件)	(前々年同月 2 件)	(令和元年同月 1 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	17,146 人	17.0 %	66.4 %	134.3 %	△ 8.5 %
	飯田～名古屋	12,047 人	21.5 %	48.1 %	64.2 %	△ 37.3 %
	飯田～長野	4,017 人	21.5 %	2.5 %	△ 5.1 %	△ 54.6 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	12,519 人	12.7 %	82.4 %	162.0 %	△ 21.6 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,893 人	17.7 %	△ 0.2 %	△ 12.1 %	△ 19.5 %
	右回り	2,902 人	10.0 %	△ 0.6 %	△ 4.5 %	△ 19.7 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIはやや悪化、受注状況の悪化を指摘する声が増加

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス8.3で、前月から8.3ポイント低下。翌月予測は0.0で、前月から5.0ポイント上昇。半導体関連は前月から減速懸念を指摘する声があったが、今月は販売が減少に転じた業者も。他の機械製造でも受注減を指摘する声が多い。一方、全国旅行支援による観光需要の増加などで、観光関連や服飾では動きが活発になってきたとの声も聞かれた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売の前月比は増加との声が多く、前年比でも増加との声が多い。一方、受注の前月比は減少～横ばいとの声が多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は概ね横ばいとの声が多く、先行きについても同様。ウクライナ情勢、半導体不足、円安、原材料高、コロナ第8波など、先行きの不透明感は依然強い。

[企業からのコメント]

- ・新型コロナウイルスによる世界経済減速の影響が長期的に懸念される中、景況は少しずつ回復してきていたが、受注高が減少に転じており、この先の販売においては不透明感が出てきている。
- ・「輸入品に関しては円安でどうにもならない状況。客先も音を上げている」「為替の影響もあり、輸入材の値上がりが顕著」

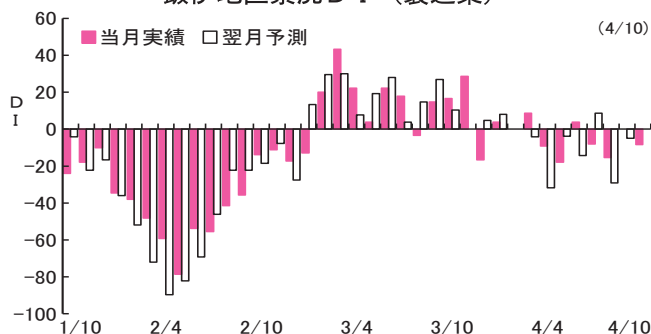
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 販売の前月比は減少～横ばい、受注残の前月比は業者により増減分かれるが、前年比では減少との声が多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は悪化～概ね横ばい、先行きについては悪化との声が複数聞かれた。中長期的な半導体不足は変わらずも、世界経済の減速により需要が回復するのは来年秋頃になる見込みとの声も。

[企業からのコメント]

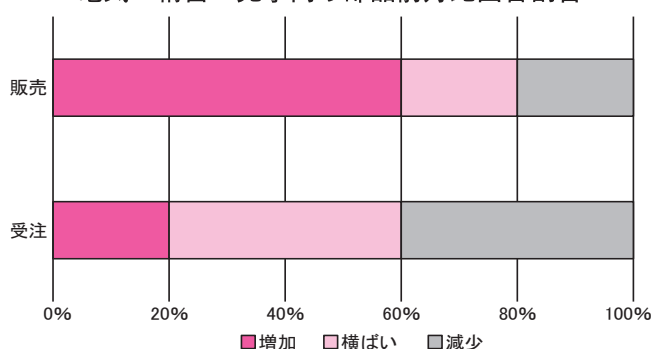
- ・「マスコミ報道や肌感では半導体業界のトーンダウンを感じる。ただ前工程の顧客の需要は活況のようで、その顧客は次の需要開拓も積極的に取り組み、開発案件への注力も怠っていない」「バックオーダーを抱えている企業は繁忙が続いているが、オーダーに追い付いている企業は需要減の影響が出始めている。来年秋頃から徐々に需要が回復する見込みとなっているがこの1年をどのような位置づけで進めるか、各社の方向性によって次の大きな需要の波に乗れるか否かの分かれ目となりそう」
- ・値下げの話題もちらほら聞こえるようになったが実感はない。政府も施策を検討しているが恒久的な対策とはならない。自社での改善と、値上げ交渉を検討中。
- ・10月に諏訪圏工業メッセに出展し、地元企業と話す中で、業況の良い企業、悪い企業の二極化が進んでいると感じた。出展ブースへの来訪者からは短納期の施策案件を相談されることが多く、また商社等の外注先を探している方も多かった。

飯伊地区景況DI（製造業）

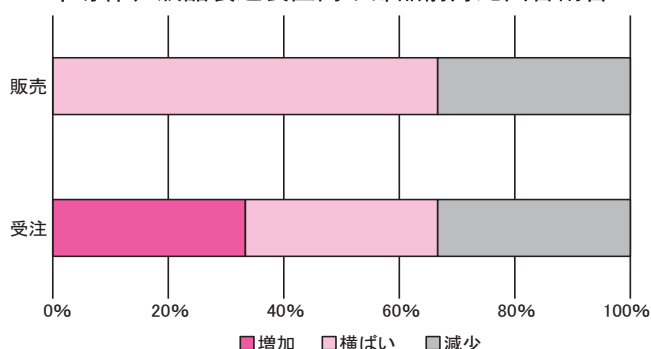


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
 景況に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
 「先月と比べて景況が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景況が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



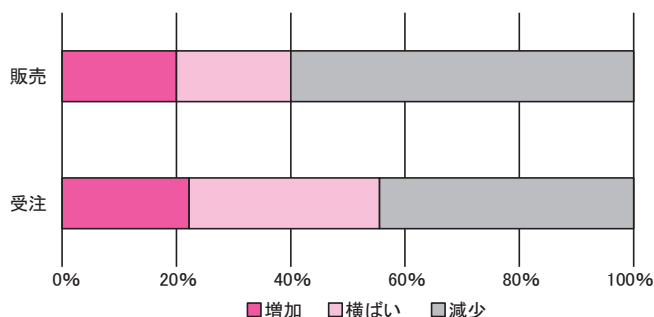
半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- 受注、販売… 販売は前月比減少との声が多い。受注も前月比、前年比で減少との声が多く聞かれた。
- 景況感…… 足元の景況感は業者により見方が分かるが、悪化との声はやや多い。先行きについても悪化を見込むとの声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「AC・サーボ主力取引先の生産説明会では受注は全体的に減少傾向にあり、半導体製造装置や工作機械関係も業種・メーカーによる格差がある」「12月以降は半導体部品の納入回復で、生産も回復する見込み」「材料屋などからは明るい話題が少ない」「値上げラッシュで自己防衛をどうするか。先の見通しが見えない状況」「同業間では若干動きが低下してきているという話を聞く」
- ・「電気料金の上昇が厳しい」「材料費、消耗品費が1～2割上昇」「アルミの地金は値下がりも、製造コスト等が値上がり」「原材料高騰に伴う価格転嫁依頼が多数。10月がピークの見込みだが、今後の経済動向によってはさらなる高騰の可能性も」
- ・強い技術力が、今後の生き残りへのパワーとなる。

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- 売上…… 漬物は前月比、前年比ともやや増加、菓子は前年比やや減少との声が多い。景況感には大きな動きは見られない。
- 原材料価格…円安の影響もあり、今後さらなる上昇の可能性ありとの声も。

[企業からのコメント]

- ・「全国旅行支援で、観光・イベント向けの動きが出てきたとの声はあるが、一般向けは相変わらずの状況」「観光需要に一定の動きが出てきた反面、小売店での商品の動きはそれほどでもないと聞く」
- ・「包材・段ボール等の資材の再値上げ、エネルギー・原料も円安の影響を受け、上昇の限界が見えない」「原材料、資材の値上がりはまだまだ続いている。為替も一時1ドル150円を突破し、輸入に頼る材料はさらに上昇の可能性があると考えられる」

●水引、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- 売上…前月比はやや増加。景況感は横ばいも、先行きはやや好転を見込むとの声も。

[企業からのコメント]

- ・昨年以上の売上は確保したが、正月関係の注文も昨年より多く納期が早まり、手数がかかる仕事で苦労した。
- ・各社とも、正月飾りの売上が多くなっており、資金繰り対応が最も重要な時期を迎えている。
- ・水引業界の衰退は家庭内職の減少につながり、当地域にも影響がある。祝儀産業を広め、頑張って貢献したいものだ。

●上記以外の製造業

- 建築用金属製品…販売は、前月比では増加、前年比では減少。先行きは増加を見込むという。
- 自動車向け部品…販売は、前月比、前年比ともにやや増加。景況感は概ね横ばいという。
- 服飾……販売は前月比、前年比とも増加。次月以降も増加を見込むという。

[企業からのコメント]

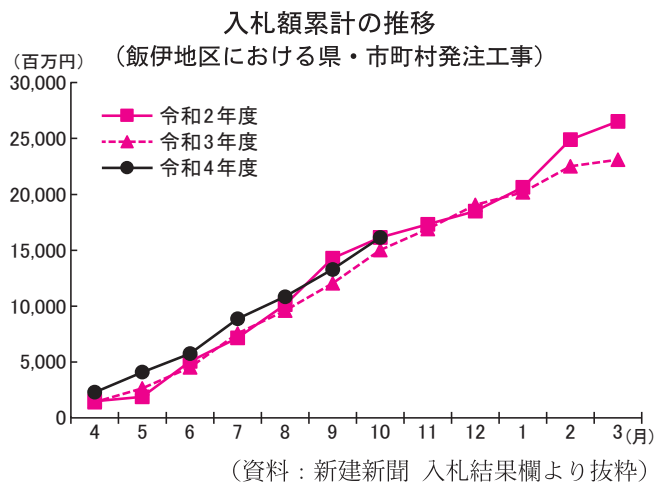
- ・首都圏の再開発事業に対する引き合いが好調。新規事業の受注が決まり、今後5～10年程度継続する見込み。
- ・10月～11月にかけて、衣料の消費が拡大しそう。インバウンド然り、国内の冬物に対する購買欲も高くなってきている。秋物がほとんど売れずに、いきなり夏から冬へと天候が変化しており、アパレル各社が冬物仕入に躍起になっている。
- ・衣料品の国内生産は、工場がますます少なくなってきており、生産が追い付かず納期も守れていない。今になってから国内回帰といっても、なかなか体制は変わらない。
- ・今後、倒産や廃業が多くなってきそう。国内縫製業が今後生き残れるように加工賃のアップをしないと、日本国内での製造が空洞化してしまう。

建設業

官公需

概況 10月の公共工事入札金額は概ね前年並み、一昨年比では約1.5倍に増加

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約28.5億円（11月15日調査時点）。前年に比べ4.0%減少、2年前との比較では54.3%増加。
- ☑受注残高…………… 前月比は業者により増減分かれる。前年比では減少との声やや多い。災害関連工事が若干出てきたとの声も。
- ☑原材料価格…………… 多くの事業者で上昇との声。公共工事に関しては、設計価格の変更に応じてもらえるケースもあるとの声も。



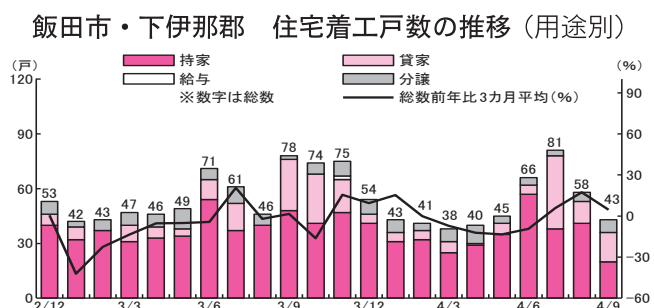
[企業からのコメント]

- ・「昨年に比べ工事発注量が少なく競争が激しいが、長野県、特に飯田下伊那地域は工事がある方だ」「災害関連工事が発注見込みで、景況感はやや好転」「大型公共工事を1件受注」
- ・建設産業でも各種資材の価格の値上げが続いている。年末に再値上げを予定している建設資材もあるとのこと。
- ・「業務量はあるが、技術者が不足している」「施工社員が不足」「土木・建築の技術者が不足している」

民需

概況 令和4年9月の住宅着工戸数は43戸で前年比45%減。持家は20戸で前年比58%減

- ☑住宅着工戸数… 当地区の9月の住宅着工戸数は43戸。前月比26%減、前年比では45%減。持家の戸数は20件と前年9月（48件）から大きく減少。
- ☑原材料価格…………… 多くの事業者で上昇が続いているとの声。民間工事では価格転嫁が難しく、利益を圧迫しているとの指摘も。



[企業からのコメント]

- ・「新築工事の受注はない。リフォーム工事のみ」「小型工事が少し受注できているが、満足するほどではない。民間建築が目につくが、施工している会社は大きな会社が多い」
- ・材料の高騰、人手不足で利益の確保が難しい。公共工事は設計価格を上げてもらえるが、民間工事はますます厳しい状況。
- ・従業員の高齢化にどう対応していくか、悩ましい。

建設資材等

概況 10月の生コンは業者により増減分かれる。骨材の売上は前年比減少との声が多い

- ☑生コン…売上は前月比、前年比とも業者により増減分かれる。
- ☑骨材…売上は前月比では減少～横ばい、前年比では減少との声が多い。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、リニア関連工事、トンネル工事、堰堤・砂防工事、工場・倉庫建設、バイパス工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の9%弱。
- ・なかなか本格的に進んでいるとはいえないリニア工事の中で、南アルプストンネルと松川工区に関わる生コン業者はそれなりに出荷があり、そこに骨材を納入している骨材業者は出荷が多い。それ以外の業者は出荷が少ない月だった。
- ・三遠南信道や国道等のトンネル工事で一部活発な資材使用があり、関わった業者はそれなりの出荷があった。この先、年度末に向けては忙しくなっていくものと予想している。

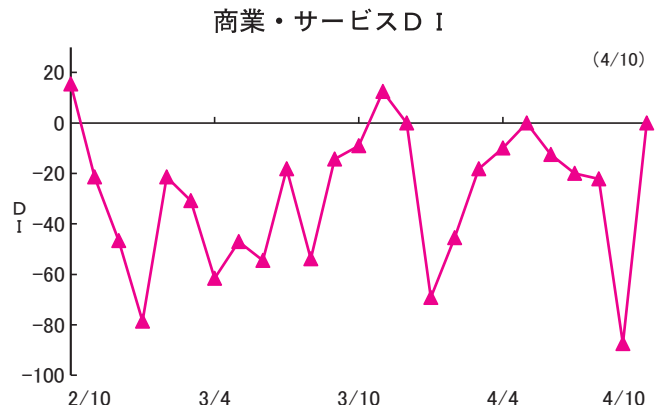
商業・サービス業

概況 景況感は横ばい傾向。コロナ第8波の影響を心配する声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は、0.0で、前月から87.5ポイント上昇。

10月前半はコロナ感染がやや落ち着き、全国旅行支援も開始になったことを受け、飲食・宿泊業や小売業で売上が増加したとの声が多く聞かれた。ただ、10月後半に入って感染者が増加傾向になり、コロナ第8波になれば年末繁忙期に向けての動きが弱くなってしまふ、と心配する声も多い。

仕入単価の上昇は幅広い業種で続いており、消費意欲の減退、購入減少につながるのではとの指摘もあった。



(資料：新建新聞入札結果欄より抜粋)

主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比で増加、前年比でもやや増加との声

☑売上……前月比では増加、前年比でもやや増加との声が多い。

☑仕入単価…上昇との声が多い。先行きについても上昇が見込まれている。

[企業からのコメント]

- ・仕入業者の大幅なリストラや営業時短が行われており、業者自体の店舗縮小、在庫縮小の影響で仕入商品が不足がち。
- ・仕入価格も次々に上昇してきており、今後の買い控えが予想される。
- ・電灯故障により、LED蛍光管取り付け工事を行った。

●卸売業 概況 売上は前月比で増加。青果卸は景況感がやや好転との声

☑売上…食品や青果卸、電設資材の売上は前月比増加。青果卸では松茸の入荷が売上増に寄与したとの声。

[企業からのコメント]

- ・野菜は前年価格安が続いていたこともあり、今年は前年より価格高の商品が多く、特にレタスが2倍、人参・白菜・菜類が5割高。松茸も今年は10月にピークを迎え、売上増につながった。野菜全体では入荷量やや減、価格は上昇し売上は好調。果実は、みかんは9月の静岡豪雨の影響もあり入荷3割減、りんごは入荷2割増、梨は入荷3割増。豊作の柿は約2倍の入荷量。果実全体では入荷量増で価格は前年並みとなり、好調な販売となった。
- ・気温の低下に伴い、中信・北信・東信方面で暖房器具の売上が伸びた。南信はそこまで気温が下がらず例年通りの売上となっている。仕入単価の増加は続いているが、物不足は以前より深刻ではない。ただ、円安の影響を受けて国内向けではなく国外向けの輸出に多くの材料や製品が流れ、国内需要に十分な流通量に達していない印象を受ける。
- ・燃料代高騰により車両費が大きく増加しており、またデジタル化、クラウド化に伴うシステム投資費が徐々に増加している。社内設備に関しても陳腐化しないようコンスタントに費用をかけていく必要があり、効率的な維持が今後の課題。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 全国旅行支援の開始により、宿泊業では景況感がやや好転。

ただ飲食業を中心に、コロナ感染再拡大を懸念する声も多い

☑売上… コロナ禍の影響が強かった前年に比べ増加。ただ下旬以降の感染者増加により、勢いが削がれたとの声も。

[企業からのコメント]

- ・10月中旬前は予約の電話がかなり入り回復を感じたが、それ以降の感染拡大傾向により年末に向けての予約は落ちてきている。ただ今までと違い予約のキャンセルはほとんどなく、少しだけ世間のコロナに対する意識が変わってきた感じがある。今後のマスコミ報道次第で、またいつ自粛ムードになるかわからないので、予断は許さない状況である。
- ・10月前半は宴会もあって好調だったが、後半は感染者が多く、夜はまったく動かなかった。宴会、会食の予約も少ない。今回の感染増加では飯田下伊那の感染数も多く、身近な人の感染も多い。年末はどうなるのか。
- ・全国旅行支援の影響もあり、全体的に客室単価も伸びて売上が上がった。全体的にもう少し動きが出ることを期待したい。
- ・全国旅行支援は消費者動向を活性化してくれるのでありがたいが、施設・利用者ともに利用の仕方が周知されていない状況で始まったので、フロント業務の負担が非常に大きくなった。
- ・前年比は改善されているが、2019年比では約2割減少。個人のタクシー需要は改善されつつあるが、企業等の大口、団体はまったく戻っておらず、行動制限がなくても平日の夜の需要は激減したまま。
- ・「今月も来月も仕入価格は上がるが、しばらくは値上げはできない。細かく材料費を計算し、質を落とさずに安い材料を探す」「様々なコストが増加しており、前年比では大きな増加に」「LPG価格は年末にかけて上昇傾向」

三遠南信地域交流たずねある記（8）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅（4）

浜松駅から豊橋駅へ（1）

～ 東海道の風情を感じる旅・コロナによる運行への影響が（3）～

「ローカル路線バス乗り継ぎの旅」(以下「テレ東番組」)に倣った三遠南信地域を巡るバス旅。第2ステージ 浜松駅・豊橋駅間の旅へと進む。

■ 越境ルートを検討

浜松市、豊橋市という県庁所在地を最短で結ぶルートであるが、県境辺りのバス路線は疎らとなっている。テレ東番組では第2回目(2008年放映、東京日本橋～京都三条大橋)でこの県境越えを行っている。当時の放送内容をビデオを見ると、東海道本線新居町駅から愛知県の二川駅(豊橋駅の一つ手前の駅)までタクシーで移動している。最初の頃は路線バスがない区間はタクシー可とされていたようだ。

浜松駅から浜名湖の北を通るか南側のルートにするかだが(頁下概略図)、北側では、浜松駅から浜松市役所南など国道257号、その後県道261号で聖隷三方原病院、気賀駅前などを経て国道362号を三ヶ日まで行っている路線(遠鉄バス気賀三ヶ日線)があるが、県境を歩いて超える必要(徒歩区間約5km)がある。

バス旅を終えて改めて調べると、三ヶ日からコミュニティバス(オレンジふれあいバス)が本坂まで行っており、峠を越えて高山まで行くと豊鉄バスの豊橋駅行きがあることが判明したのであるが、峠の本坂トンネルの前後は歩かなければならない。

この国道362号から県道261号を辿るルートは「姫街道」(三河の御油《豊川》で東海道から分岐、本坂、気賀を経て見付《磐田》で東海道と合流)と呼ばれ、東海道の脇街道として往時は往来が盛んだった。こちらを訪れてみたい街道ではある。



国道1号線浜名湖バイパスと国道301号 (浜名湖弁天島付近)



遠鉄バス浜名線 浜松駅～馬郡 490円

■ 湖西市を目指すことに

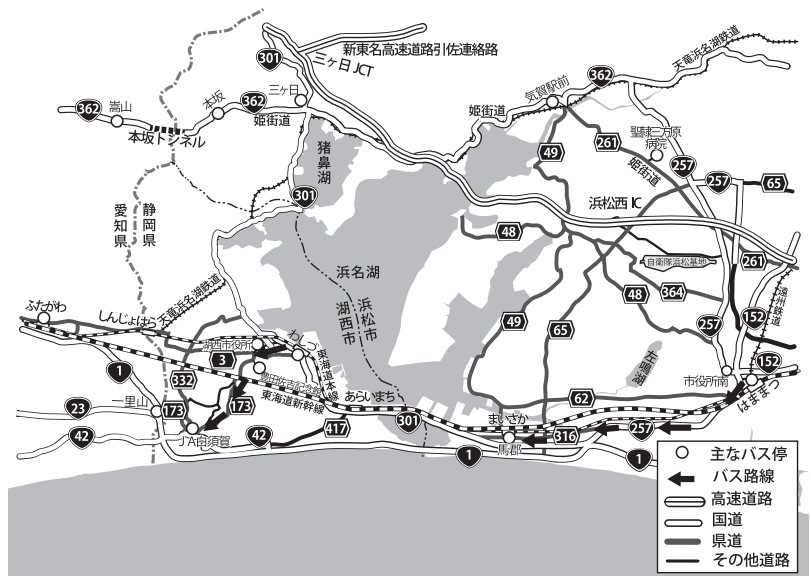
浜名湖の南側では、浜松駅から遠鉄バス浜名線がある。これを利用し湖西市を抜けて愛知県に入る。県境を越えれば豊橋市となる。

ただ、浜名線にはこれまで湖西市役所行きの便があった。実は令和2年、豪雨災害で国道152号通行止めの際、水窪町・浜松駅間を中抜きし浜松駅からこれに乗り豊橋駅を目指したのだが、前回(令和4年10月発行号 No.522)述べた遠鉄バス笠井線西鹿島駅・笠井上町間の路線廃止と同様、浜名線は途中の馬郡までとなってしまった。

馬郡は東海道本線舞阪駅のところ。舞阪駅から鷺津駅まで電車で行けば鷺津駅からコミュニティバスで白須賀まで、そこから県境を越られそうだ。

以下では2年前のバス旅で見聞したことも一部交えて記すこととする。

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 概略図 浜松駅～白須賀宿



■浜松駅から馬郡・舞阪駅へ

浜松駅バスセンターからは、以前の浜名線湖西市役所行きでは始発12時30分まで待たなければならなかったが、馬郡行きだと始発6時台から、毎時2本程度出ているので9時00分発に乗ることとした。浜松駅を出発、ショッピングモールザザシティ浜松から左折し国道257号を南下、東海道本線、東海道新幹線のガードを潜る。出発時は20名近い乗客だったが、途中のバス停で降り段々と減ってくる。途中バス停からの乗車は数人というところ。

バスは県道316号へと入り、両側が住宅の中を進む。この道路が旧東海道であることが判る。終点の馬郡バス停は現存する東海道松並木の中にあり、街道の風情を感じる。前回乗ったときは、バスはここから左折して国道301号に入り、浜名湖の弁天港を通った。弁天島には宿泊施設等が立ち並んでいる。小学生の時、浜名湖潮干狩り修学旅行ではこの辺に立ち寄ったのかと懐かしさを覚えた。遠くには国道1号浜名湖バイパスが見える(冒頭写真)。新居関所跡の前を通り、鷺津駅を経て終点湖西市役所に到着した。

今回は馬郡バス停で降ろされて徒歩数分で東海道本線舞阪駅に着く。舞阪は東海道五十三次の30番目の宿場町だったところ。舞阪駅から鷺津駅まで忸怩たる思いの電車移動となるのだが、踏切事故があったとのことで電車が来ない。2時間近くの待ちとなった。早めの出発だったのが幸いし後の行程への影響は避けられた。

■旧白須賀宿へ至る

電車で既に市境を越えているため鷺津駅は湖西市域となる。ここから市コミュニティバス(コーちゃんバス)で県境を目指す。湖西市は昭和30年に白須賀町、鷺津町、新所村、知波多村、入出村が合併し湖西市が誕生。同47年に市制施行となった。

湖西市の特徴というか売りは、同市のパンフレット(市HP)によると①「ものづくり精神のまち」製造品出荷額が県下3位、人口あたり製造品出荷額が全国1位(2018年)。スズキ(株)(湖西工場)やトヨタ系列の事業所など自動車関連をはじめとする製造業が集積している、②旧東海道の新居関所や宿場町の町並みの景観 新居関所は国内に唯一現存する関所、③近代産業の発展に尽力された豊田佐吉翁の生誕地 生家が保存され、豊田佐吉記念館が設けられて来訪者を迎えている。

バスは鷺津駅を出て湖西市役所など概ね県道173号を進むが途中で大きく逸れて豊田佐吉記念館に立ち寄る。道中は「ものづくりのまち」だけあって工業団地があちこちにあり、その他にも製造業の事業所が点々としているが、一方では以前農業が中心だった頃を窺わせる田畑が広がっており、その中を進んでいく。

やがて民家が密集して立ち並び、両側の軒が道路にせり出しているかのような集落にバスが入った。東海道の宿場白須賀宿だと判る。何十年も前のことだが、某食品メーカーの「お茶づけ」に安藤広重「東海道五拾三次」浮世絵のカードが入っており、それを5枚だったか10枚か集めて送ると揃い(五十三次に日本橋と三条大橋の55枚)のカードが貰えた。それを見ていたので東海道の宿場名はこの辺りで言えば、見付(磐田)、浜松、舞阪、新居、二川、吉田(豊橋)と、だいたい頭に入っているつもりだったが、この白須賀宿は抜けていた。バスの終点はJA白須賀(JAとびあ浜松白須賀支店)。集落の外を国道1号バイパスが設けられているため、旧宿場内の交通は殆どなく静謐が保たれている。各民家の前にはそれぞれの屋号が書かれた看板が立ち、宿場当時にどんな商売をしていたか説明書きで知ることができる。

ここから徒歩による静岡・愛知県境超えとなる。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)



東海道長池松並木
(浜松市西区舞阪町)



湖西市コミュニティバス(コーちゃんバス)
白須賀鷺津線
鷺津駅～JA白須賀支店
一律：大人200円



豊田佐吉記念館
(湖西市山口)



東海道旧白須賀宿
(湖西市白須賀)

－「カーボンニュートラルに関するアンケート調査」結果－

2021年5月の「地球温暖化対策推進法」の改正案で、「2050年までの脱炭素社会の実現」が新たに明記されるなど、ますます環境にも配慮した経営を求められるようになってきており、温室効果ガス排出量の開示や削減への対応をお考えの事業者様は多いと思われる。こうした中、しんきん南信州地域研究所では、カーボンニュートラルに対する目下の取り組みの状況についてアンケート調査を行った。

本アンケートは、令和3年12月に（一財）しんきん経済研究所が、浜松市の事業所を対象に行ったアンケート調査と共通の設問を設定し、異なった時期における地域間の比較も試みている。

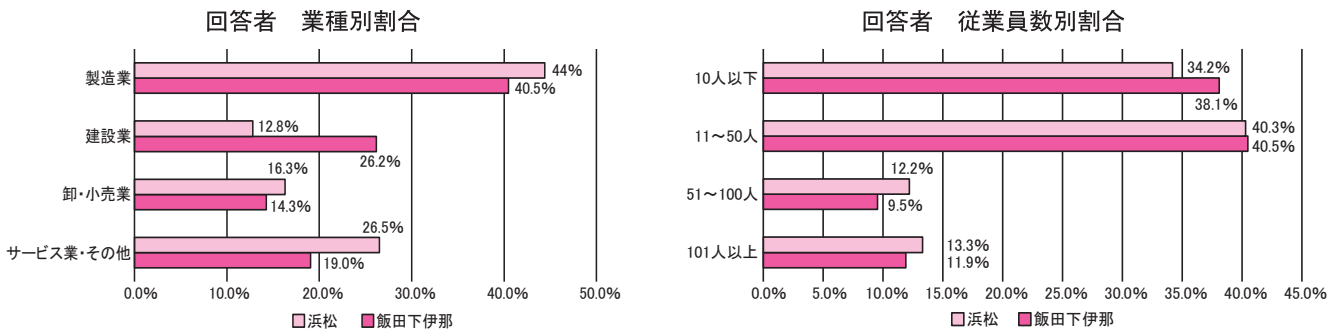
ご多忙の中ご回答いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

I アンケート調査の概要と、回答者の属性

(1) アンケート概要：

	飯田下伊那	浜 松
調査内容	カーボンニュートラルに関するアンケート調査	
調査対象	飯田下伊那地域の企業・個人事業主483社 うち回答数42社（回答率8.7%）	静岡県西部地域の法人企業2,746社 うち回答数196社（回答率7.1%）
調査方法	郵送、メール配信、LINEによる調査	メール配信による Web 調査
調査期間	令和4年9月5日～30日	令和3年12月6日～15日

(2) 回答者属性：



II アンケート結果の概要

●カーボンニュートラルに対する取り組み状況

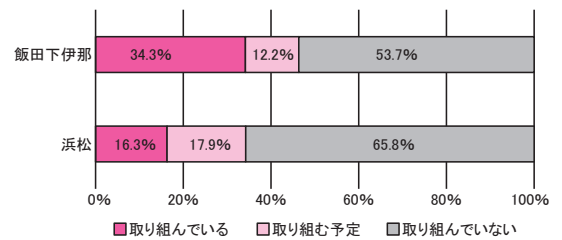
右のグラフは、「現在、カーボンニュートラルに対する取り組みを行っているか」を尋ねたもの。

これを見ると、飯田下伊那の「取り組んでいない」とする回答の割合が、浜松よりも小さい。

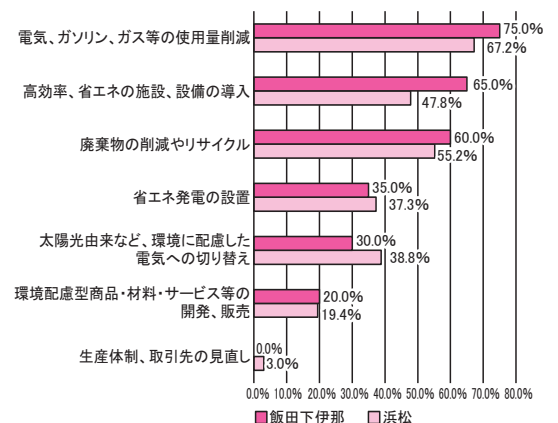
グラフにないが、飯田下伊那で「取り組んでいる」ないし「取り組む予定がある」とした回答者を従業員数別に見ると、従業員10人以下の事業所では12.5%だったものが、11～50人では56.3%、51～100人では75.0%、101～300人の事業所では回答者のすべてが「取り組んでいる」ないし「取り組む予定がある」と回答しており、従業員数の多い回答者ほど取り組みが進んでいる。

カーボンニュートラルに「取り組んでいる」あるいは「取り組む予定がある」とした回答者に、具体的な取り組み項目を聞いたところ、飯田下伊那、浜松共に「電気、ガソリン、ガス等の使用量削減」「廃棄物の削減やりサイクル」「高効率、省エネの施設、設備の導入」といった項目を挙げる回答者が多かった。飯田下伊那では、これらの項目や、「社内照明のLED化」といった回答は業種を問わず見受けられる。また、建設業から「環境ISO14001、

カーボンニュートラルの取り組み状況



取り組み済みもしくは取り組む予定の具体的な項目



品質 ISO9001、SDGs等の取り組みの中で展開「燃料の削減をする為に、ハイブリッド重機4台入替。建築工事では、高気密高断熱にし、暖房器や電気使用をしない取り組み、太陽光発電システムを使用しオール電化、太陽熱給湯システムを取入れている」などの回答があったほか、運輸業から「エコモ財団のグリーン経営※、長野県のSDGs推進企業、南信州広域連合のいいむす21の認証により環境に配慮した経営を実践している。本年度より太陽光発電での自家消費に加え、飯田まちづくり電力との南信州ゼロカーボン電気の供給により、飯田市乗合タクシーでゼロエミッションEVタクシーの運行をスタート」など、特色ある取り組みも見られた。

※エコモ財団…(公財)交通エコロジー・モビリティ財団。運輸とその関連分野における交通バリアフリーの推進などのほか、持続可能な環境・省資源型社会を実現するための交通システムの推進を目指して、環境負荷の少ない事業運営の取り組みであるグリーン経営認証制度を実施している。

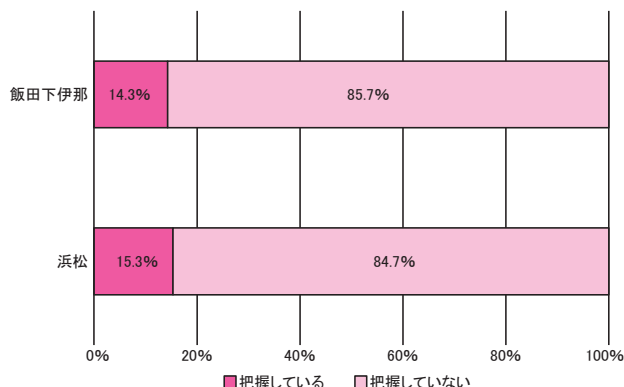
●CO₂排出量の把握

本調査では、カーボンニュートラルに対する取り組みとは別に、自社が事業全体にかかるCO₂など温室効果ガス排出量を把握しているかどうかを尋ねた。

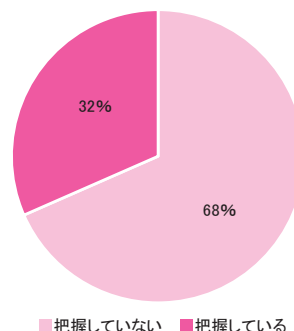
下記左グラフはその結果だが、これを見ると、調査時期が異なるものの、飯田下伊那、浜松両地域で大きな差はなく、把握しているのは6～7社に1社程度となっている。

先にカーボンニュートラルへの取り組みを尋ねたが、これに「取り組んでいる」ないし「取り組む予定がある」と回答した事業者について「CO₂排出量を把握している」かを見たのが下記右グラフだが、カーボンニュートラルに取り組む意向がある事業者であっても、68%がCO₂排出量を把握していない。CO₂排出量の把握には、「電気、ガソリン、ガス等の使用量削減」といった取り組みとは異なる困難があるのかもしれない。

CO₂排出量の把握について



CO₂排出量の把握
(南信州・カーボンニュートラルに取り組んでいる、
取り組む予定がある事業者)



●CO₂排出量調査や削減要請の有無

近時は、企業が、サプライチェーン全体のCO₂排出量を把握するよう求められるようになってきている。そこで、本調査でも、自社に対し、他社などからCO₂排出量調査や削減要請があったかどうかを聞いている。

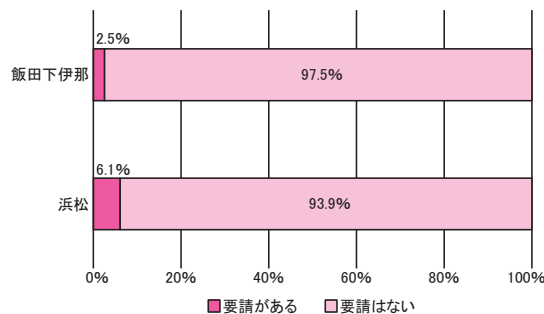
結果を見ると、飯田下伊那、浜松両地域とも「要請があった」との回答は1割に満たないが、南信州地域で「要請があった」と回答した事業者は2.5%で、浜松の6.1%に比べると少ない。因みに、南信州地域で「要請があった」と回答した事業者は、カーボンニュートラルに取り組んでいるし、CO₂排出量も把握しているとしていた。

飯田下伊那では、現時点でCO₂排出量の調査や削減要請がない事業者について、向こう1年以内に要請があると見込んでいるかどうかも聞いており、約88%の事業者が、今後1年の間では、CO₂排出量調査や削減要請はないと考えている。

とはいえ、次回ご紹介するが、向こう1年以内にカーボンニュートラルに対する取り組みが必要になると思うか聞くと、57%の事業者が必要になると回答しており、CO₂排出量の調査や削減の要請はないまでも、取組の必要性を認識する事業者は多い。

(飯田信用金庫 しんきん南信州経済研究所 中村 達)

CO₂の排出量調査や削減要請の有無



CO₂排出量調査や削減要請の有無(飯田下伊那)

